

# 研究インテグリティ

井料隆雅  
2026/4/6

# 研究インテグリティとは

- 研究インテグリティ：研究の健全性・公平性を意味する。
  - インテグリティ：Integrity = 誠実さ
- 学術活動は新しい知を創造しそれを継承することを目的とする。
  - この目的の実現のために、学術活動の主役である大学は、今日ではさまざまな活動を行っているが、学問の種類にかかわらず究極的には「知の創造」が目的であることは銘記すべし。
- その活動を健全・公平・かつ透明性を備えた方法で進めて、学術活動とそのアウトプット、さらにはそれを行う学術共同体に対する信頼を確保することが、すべての学術活動への参加者に求められている。
- 学術共同体を職業とみなせば、研究インテグリティは「職業倫理」のひとつの実装と捉えることもできる。

# 研究インテグリティの基本原則

- All European Academies (ALLEA) (2023) による

- [https://allea.org/wp-content/uploads/2025/12/20251205\\_CoC2023\\_Japanese\\_print.pdf](https://allea.org/wp-content/uploads/2025/12/20251205_CoC2023_Japanese_print.pdf) DOI 10.26356/ECOC-Japanese

1. 信頼性

- 設計, 方法論, 分析, およびリソースの利用に反映される研究の質を確保する.

2. 誠実性

- 研究の開発, 実施, レビュー, 報告, およびコミュニケーションを透明, 公正, 完全かつ公平な方法で行う.

3. 尊重

- 同僚, 研究参加者, 研究主題, 社会, 生態系, 文化遺産, および環境の尊重

4. 説明責任

- アイデアから出版までの研究, その管理と組織, トレーニング, 監督, および指導, そしてその広範な社会的影響に対する説明責任.

# 研究インテグリティの基本原則

- 東北大学（年不明）による，新入生向けの資料
  - [https://ital.ihe.tohoku.ac.jp/italwp/wp-content/uploads/2024/03/dousuru\\_v3.pdf](https://ital.ihe.tohoku.ac.jp/italwp/wp-content/uploads/2024/03/dousuru_v3.pdf)
- 誠実な学びと研究の基本となる6つの価値  
正直，信頼，公正，敬意，責任，勇気
- ALLEAの定義に対し正直と勇気が切り出されているところが異なる。
  - 正直：誠実性の担保のための基本原則  
「正直であることは、学習、教育、研究、社会貢献の基盤であり、他の価値を実現するための必要条件でもあります。例えば、データのねつ造や改ざんは、明確にこの価値に反します。実際に、データ収集や分析、思考など、新しい知を生み出す過程では、あなたしか知らない情報を多く扱います。他者は、それらを確認することが困難なため、正直であることはとても重要です。不正直な行為は、学術コミュニティやメンバーに悪影響を及ぼすだけでなく、大学の評判にも影響し、その大学の学位の価値まで下げます。」（P2より引用：傍線追加）
  - 勇気：誠実性を担保するために必要な態度と行動

# 研究インテグリティの実践

- 自律的な行動
  - 学術活動の社会に対する責任を自覚し，自身の行動がどのような影響を及ぼすかを自覚しながら，自律的に行動する。
- 適切な手順
  - 各原則を担保するために，研究を適切な手順で行う。
  - 慣習的なものから，所属機関や出版社などが明文で定めるガイドラインやルールまで幅がある。法令遵守ももちろん含まれる。
    - AIの利用についても最近では明文のガイドラインが整備されつつある。  
※ AIは著者ではないので，生成物には自分が責任を持つことが原理原則。  
その生成物が「自分の創造した知」を本質的な価値として含むことも重要
  - 慣習やルールなど外的な制約は，外から見た共同体全体の信頼性の確保に必要なだが，最終的には自律的に判断することが重要である。
- 他者の尊重
  - さまざまな背景を持つ研究参加者の尊重
  - 社会や環境の尊重（研究倫理審査のプロセス）

# 研究インテグリティの実践の重要性

- 研究インテグリティを実践しないと、学術活動や学術共同体の維持が困難となる。例えば・・・
  1. 研究成果は論文として公開される。他の研究者は論文に書いてあることが、その研究の実施状況が正直に書いてあることを前提として自身の研究をする。もし論文の記述が正直でなく、著者らの利益になるように歪曲されていることが常態化すれば、論文というシステムは崩壊する。
  2. 研究成果は時には社会を動かす重要な知識となることがある。この正確性が担保されないと社会に対して害をもたらす結果となる。このようなことが続けば、学術共同体は信頼される集団として社会から認められなくなる。
  3. 共同体が信頼を失うことがあれば、社会は共同体に対して法律による規制をかけるようになる。これにより自律性を失い、かつ自由な活動もできなくなってしまう。

# 職業倫理／技術者倫理との関係

- 多くの専門職業（工学や医学など）においては，その職能集団によって，何らかの倫理規定が定められている
  - 土木学会：<https://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml>
- これらの専門職業は，社会一般が保有していない高度な知識を共有し，それを用いて時には人命に関わる意思決定を行う。
- 社会に対する責任を自覚して自律的に活動するための倫理をもちあわせているからこそ，専門職業として社会から認知され，職能集団内での自治を確保することができる。
  - このことに失敗すると，高度な知識を有さない外部の人間からの介入を受け，結果として職能集団の社会的な機能が著しく下がることになる。これは職能集団にとっても社会にとっても不幸なことである。

# 研究室での活動との関係

- 研究室や指導教員と学生との関係は学術共同体のサブセットであり、この中においても研究インテグリティの考え方は援用される場面が多いことは重要。
  - ここがきちんとしていないと、最終的に研究室内にとどまらない大規模な研究不正につながることになりかねない。
  - いわゆるハラスメントの問題：教員もちろんそうだが、学生間でも互いに尊重する姿勢が重要。
- 構成員間での誠実かつ正直なコミュニケーションを心がける
  - わからないことは周囲の人（教員、研究スタッフ、事務職員、学生など）に聞いたり相談したりする習慣をつける。
  - 学術共同体としての価値観を共有する。
  - 自分の言葉でコミュニケーションをする。
- 研究資源の適切な取り扱い
  - 研究資源は研究のために用いるものであり、その取り扱いには責任を伴うことを自覚する。
  - 他機関から借りているもの（データも含む）があることにも注意！

## さいごに

- この研究室に来た方は、どのような立場であっても、交通や都市をよりよくするための知的生産を通じて社会に貢献しようといったモチベーションをお持ちだと思います。
- 研究インテグリティはこのモチベーションと整合するので、その実践はそれほど難しくないとはいえます。
- わからないことは教員（直接の指導教員に限らずだれでも）や研究スタッフ、先輩などにも聞いて、研究室での活動を行ってください。
- 将来研究職以外になる方においても、学術共同体での活動を通じて技術者倫理の考え方を見につけることは、将来責任ある立場につくためにとっても重要な経験と考えます。